

曲線化ダーツによる密着型衣服のパターンに関する研究
—ザ・リッチマン・ブラザーズ社の特許出願に関連して—
日本女大家政 小口 登

目的：被服を製作するに当たり、個人の被服を仮縫い補正なしで作るためには原型の段階において個人の体型情報が充分入力され、その原型のパターンによってよりよく密着した被服が製作されなければならない。従来このパターンのコンピュータ化を行ってきたのであるが、今回はダーツの曲線化を行い、パソコンによって実寸描画が分割出力によってでき、教育に利用できるようなプログラムを作成することを目的とした。なお本研究の位置付けを「ザ・リッチマン・ブラザーズ社」の特許出願問題との関連において論ずる。

方法：従来の研究によって胴部原型についてはボディシエルの平面化によってその形状を決め、その形状を多くの三角形によって分割し、パソコンのCGによって分割描画した。本研究も基本的には同じであるが、ダーツを直線を含む曲線によって曲面化を行った。曲線化に当たってはN次曲線とスーパー楕円を用いるのであるが、ダーツ長・アームホールの長さを計測し入力することによってパラメータが算出されて曲線ダーツやアームホール長が描かれるようにプログラムを組んだ。曲線ダーツにする事は球面三角形の問題絵の接近である。出力は前・後身頃ともそれぞれ九分割して行うため特別なプロッターは必要ない。出力したパターンにより密着服を作り5名の被験者に着装させて密着性を評価した。

結果：5名の被験者を対象とした結果では密着性は向上したもののアームホールラインが浮き上がる場合もある。これから体形寸法の入力値に対して、測定箇所を減ずるために三角形の解法によって他の計測値から計算させるか、または実測するかが問題として残った。